



姉妹都市 白石市の紹介

登別市と宮城県白石市は、昭和58年10月26日に姉妹都市の盟約調印を行い、本年は20年という節目の年を迎えることができました。20周年を記念して、9月に記念祝賀会や講演会などを開催し、10月には市民のみなさんを募集して白石市を訪問する記念ツアーを行います。

今月号の特集では、白石市と登別市とのゆかりや白石市の姿を紹介します。



白石市の中心部にありまちのシンボル白石城

白石城をモデルに建てられた登別市郷土資料館

白石市の歴史

白石市は、蔵王連峰と阿武隈山脈に囲まれた城下町です。その歴史は古く白石城の名が歴史上に現れるのは、今からおよそ900年前の平安末期のころです。

片倉小十郎景綱が伊達政宗からこの地を拝領したのは慶長7年（1602）のことです。一万八千石の城主となった景綱は、城の改築と城下の規模拡充に励み、現在の白石市の基礎を築きました。以後片倉家は、明治維新までの約260年間十代にわた



つてこの地を治めました。明治維新を迎えようとしていたときの白石城主は第十一代小十郎邦憲で、このころの武士の生活は白石領も例外なく厳しいもので、非番には畑仕事にたずさわるなどをして生活を支えていたのです。

このような情勢の中で戊辰戦争の敗北は、片倉家を混乱と危機に落とし入れたのでした。そこで旧領主片倉小十郎邦憲は、家臣の経済的破たんを救い、武家の面目を保ちながら家中の建て直しを図るため、祖先の霊を祭る常葉山傑山寺に家臣を集め、激論の末、北海道への移住を決めたのでした。

現在の白石市

白石市の位置
白石市は、仙台市から南へ約50キロ、福島県との県境に接する人口約4万1千人の城下町です。